

# 圧倒的な卒業生ネットワークを持つ大学

Have a rich network of graduates

## 「人脈づくり」より「仲間づくり」が重要だ：勝谷

勝屋久事務所  
勝屋 久



かつや・ひさし●1962年東京生まれ。85年上智大学理工学部数学科卒業。卒業後、日本アイ・ビー・エム入社。IBM Venture Capital Group パートナー・日本代表などを経て、2010年に勝屋久事務所を設立。プロフェッショナル・コンサルタントとして「つながりで人がもっと元気になるお手伝い」中。

「仲間」の輝き

遊びの中に垣間見える  
「仲間」の輝き

企業のスタートアップメンバーが、同じ大学という話をよく聞きます。また、仕事がうまくいかないと、苦境に陥ったときに助けてくれるのは、ビジネスで培った人脈ではなく、同じ大学出身の同窓生だった、という話もあります。これらは、ビジネスの世界に広がる「大学の遺伝子」ともいべき力ではないでしょうか。実際にそれは、どのように機能しているのか。今回は本テーマの実像を探るために、上智大学の世代の異なる同窓生、4人に語り合っていただきます。

皆さんは出身校の上智大学を、どんな大学だととらえていますか。

**勝屋久氏**（以下、勝屋） 上智大の特徴は、同窓生数が比較的少ないことだと思います。僕はネット・ベンチャーファンドの友人が多いのですが、ジェフを含め

**梅澤亮氏**（以下、梅澤） 僕自身も帰国子女ですが、僕やジェフリーが卒業した比較文化学部は特に帰国子女や

で、業界にも上智大卒は比較的少ないんじゃないかな。

**ジェフリー・チャー氏**（以下、チャー）

多分、ほぼ全員を知っています（笑）。

**勝屋** 先日もあるイベントで一緒に盛り上がりました。同窓生の多い大学では、そうはいきません。

**上田美央氏**（以下、上田） 確かに、

上智大卒というだけで、親近感が湧き

ますよね。

**勝屋** グローバルなつながりも上智大卒の当り前。スペインでホームステイもしました。そんな環境の中、「国籍や言語が違つても人間は通じ合える」と確信するようになりました。

**梅澤亮氏**（以下、梅澤） 僕自身も帰

りました。そんな環境の中、「国

籍や言語が違つても人間は通じ合える」と確信するようになりました。

## 「裸の付き合い」が損得抜きのつながりを生む：チャー

**上田** 確かに、「特に人脈を広げよう」と思っていなくても、大学の同窓生は不思議と一対一で会うと、初対面でもすぐに打ち解けることができますね。

**勝屋** それってすごく重要なことで、僕は「人脈づくり」よりも「仲間づくり」が大切だと言っているんです。社会に

**上田** 学生時代は裸の付き合いだと思います。その人のために何かしたい」という気持ちが自然に培われていますよね。

**チャー** 学生時代は裸の付き合いだと思います。その人のために何かしたい」という

# 圧倒的な卒業生ネットワークを持つ大学

Have a rich network of graduates

## ビジネスに広がる大学の遺伝子

大学は学びの場であると同時に、学生たちが青春を過ごす舞台でもある。

そこで培われたネットワークは社会において重要な意味を持つ。

大学時代のネットワークの上にビジネスの花を咲かせる

上智大学の卒業生4名に語り合ってもらった。

Text: 田端広英、入倉由理子 Photo: 平山 諭

### ◎大学の遺伝子でつながれたビジネスネットワーク



## 世代や空間を超えてつながる

面識がなくても、同窓と聞いた瞬間に打ち解けた。そんな経験を持つ人は少なくないだろう。それは単に「懐かしさ」だけではなく、建学の精神によって培われた遺伝子が共鳴し合うからではないか。登場いただいた上智大学の4人は、大学時代には面識はない。それでも「上智大学らしさ」に共通認識を持ち、それを肯定的に語る。遺伝子には、世代も空間を超えて人をつなぐ力がある。

## 「チーム」として高い成果に期待

大学時代の友人ではなくても、チャー氏、梅澤氏のように世代を超えてビジネスで結びつく例もある。歴史の中に受け継がれる建学の精神に基づいて、同じ判断基準や価値観、志向性を持つため、相互理解や信頼関係の構築に時間を要さず、スピーディにチームビルディングが行われる。それはスピード感を問われるビジネスの世界においては、高い成果に結びつく可能性も高いのだ。

## 卒業生こそが大学の価値

卒業生がその遺伝子に誇りを持ち、卒業した大学やその学生に関心を持ち続けることによって、その大学らしさはより強くなり、社会での認知度や価値も高くなる。「(活躍している) ○○さんは××大学出身だよ」「卒業生の△△さんと話したけど、やっぱりうちの大学らしい人だった」——そんな言葉が飛び交うことで、遺伝子が持つ特徴はポジティブに研ぎ澄まされるのである。

## 「チーム」を組む相手になる

勝屋氏が語るように、大学時代の友人・知人は、打算や利害のない関係である。学びや遊び、日常の中にその人の本質的な強みや弱みを見ることができる。だからこそ、同じ時間、空間を過ごし、お互いの理解が深いからこそ、卒業してからビジネスにおいて「チーム」を組む相手になり得る。実際に大学時代の友人と起業した上田氏の例は、それを象徴する好例である。

## 同窓を軸に、応援や支援の輪

FacebookなどのSNSによって、同窓のネットワークを築くことが容易になった。お互いの活動を見聞きして、組み込まれた遺伝子が共鳴し合い、その思想や姿勢に共感することも多いだろう。すると、自分が持つ異なるネットワークに同窓生の活動をシェアしたり、有効な人脈を結びつけたりと、さまざまな形で応援、支援の輪が広がっていく。同窓を軸とした巨大なネットワークになり得る可能性も秘めている。

## ビジネスに広がる大学の遺伝子とは?

## 「建学の精神」「らしさ」が、学生共通の価値観を形成する

大学にはおしなべて「建学の精神」が存在する。企業になぞらえて言うなら、「経営理念」や「経営のミッション」だ。建学の精神もそれと同様に、それぞれの大学の歴史の中に脈々と受け継がれ、大学の学部の構成、講義や研究の内容、キャンパスや施設、教授の陣容やそれぞれの考え方、教え方に宿っているのだ。

例えば、「自由」を標榜する大学であれば、学部間、大学間の単位互換に自由度が高かつたり、自学自習を支援するような施設、スペースが充実しているかもしれない。教授と学生の関係も、よりフラットなものかもしれない。そこで4年、6年と移管を過ぎ、学び、育った学生の中に、その精神は浸透し、蓄積される。それが「遺伝子」である。「質実剛健」を掲げる大学で育った学生とは、異なる遺伝子が組み込まれ、卒業していく。

一度組み込まれた遺伝子は、卒業後、社会に出でからも、モノの考え方や行動において影響することは間違いない。その遺伝子は、ビジネスの中でのどのような影響をもつただろうか。5つのポイントで考えてみた。

## ビジネス上の出会いでも、すぐ共感できた：梅澤

ら、損得や利害を抜きにピュアな関係で結ばれる。そこが、社会に出てからとの大きな違いだと思います。

**上田**

起業したら「この仕事がつながりそうだ」と人を紹介されることがありました。実は、そこにものすごく違和感がありますね。その点、学生時代の友人とのやりとりは駆け引きがない。テレビ局の友人に「この商品、紹介して」と頼むことがあります、「できる／できない」の答えがクリアに返ってくるんです。

**勝屋** 仲間だから打算がない。だからこそ信頼関係が生まれ、一緒に組むこともできるのでしょうか。

## 「思い」に共鳴しつながる関係

——実際に上田さんは別々の会社で働いていた大学時代の同級生の山田奈央子さんと起業されています、チャーサンと梅澤さんも、世代を超えてはい

ジェイ・シード  
梅澤 亮



うめざわ・りょう ●1983年生まれ。フィリピン育ち。2007年上智大学比較文化学部経済学専攻卒業。在学中の05年からジェイ・シード株にインターンとして参画。投資先の取締役、オールクーポンジャパンなどを経て、現在は海外投資、アライアンスを担当。個人でも投資を行う。

## 駆け引きなしで気楽な学生時代の友人との関係：上田

ですね。梅澤さんは、チャーさんの会社、なんてことはまったく関係なく、「ベンチャーフィード」というのが、インターに応募した動機です。ただ、そこにジェフリーガードがいた。

**梅澤** も、大学の先輩の会社、なんてことはまったく関係なく、「ベンチャーフィード」というのが、インターに応募した動機です。

**上田**

「思い」が近い者同士が結ばれることで、ネットワークは広がってい

ます。梅澤くんのよう好奇心いっぱいの良い出会いがあるんです。「何かをやりたい」という思いは、人と人との結びつけるものなんですね。そこで出会った相手が同じ大学出身ならば、より応援したい気持ちにもなります。

**上田** 「思い」が近い者同士が結ばれることで、ネットワークは広がってい

くんだと思います。山田とは起業を決める前から、起業家セミナーでばつたり、足りない会員であります。学

り出会うことが何度もありました。学

生時代の友人は同じ学びの思想のもとに、同じ時を過ごし、趣味や遊びを共

有する仲間であり、互いにひかれ合

たり、足りないものを補い合う間柄だと思います。だからこそ、「思い」が共鳴やすいのではないかと思うが。

**梅澤** ずっと言わていますが(笑)、僕は海外出張中。僕がいたら採用してもらいました。

**上田** いつもそんな会話をしているんですか。仲がいいですね(笑)。

**梅澤** 取締役に送り込まれるというチャンスも、彼をインターに採用したとき、必ず、パソコンも使える。良くも悪くも比較文化学部らしい学生でしたね。でも、彼をインターに採用したとき、いなかつたかもしれません(笑)。

**チャーサー** 英語はペラペラで物怖じせず、パソコンも使える。良くも悪くも、彼をインターに採用したとき、僕は海外出張中。僕がいたら採用してもらいました。

**梅澤** ずっと言わっていますが(笑)、僕は海外出張中。僕がいたら採用してもらいました。

**上田** いつもそんな会話をしているんですか。仲がいいですね(笑)。

**梅澤** 取締役に送り込まれるというチャンスも、彼をインターに採用したとき、いなかつたかもしれません(笑)。

**チャーサー** 英語はペラペラで物怖じせず、パソコンも使える。良くも悪くも、彼をインターに採用したとき、僕は海外出張中。僕がいたら採用してもらいました。

**梅澤** ずっと言わっていますが(笑)、僕は海外出張中。僕がいたら採用してもらいました。

**上田** いつもそんな会話をしているんですか。仲がいいですね(笑)。